



旧小川原湖民俗博物館資料をテーマに発表する
長尾正義さん

三沢市の文化財どう活用

弘大フォーラムで発表

弘前大人文社会科学部地域未来創生センター主催の「市民と文化財フォーラム」博物館的想像力 渋沢敬三と

今和次郎「民具学・考現学と青森県」が9月24日、同学部で開かれた。一般、市民団体、学生、研究者、博

物館や大学関係者といった幅広い分野から約70人が参加した。

第1部の基調講演に

続き、第2部では渋沢敬三、今和次郎と青森県の関連性、ゆかりの深い資料や建築物などをテーマに各専門、研究分野による発表があった。

三沢市生涯学習課の長尾正義さんは、旧小川原湖民俗博物館の資料について、ボランティア、各市町村機関との連携、協力による資料の移動、その後の保

財になり得るかどうかの検討も進めている」と、今後の資料活用構想にも触れた。

同学部教授の山田巖子さんは、施設の廃館や経営難など文化財を取り巻く厳しい状況を説明。旧小川原湖民俗博物館資料を活用し、センターや学生が資料展示をはじめ、市民を交えた話し合いを実施した様子などを紹介した。文化財を活用しコミュニティ構築や地域活性化につなげている他県の事例などを挙げ「保全や活用にはネットワークの強化も必要」と語った。

質疑応答では、三沢市の資料の保存方法や活用法に対しても質問や提案が出るなど、活発に意見が交わされた。

(小笠原彩子)